

タミフル非使用例の「異常な行動」等について(その2)(平成19年4月3日～4月17日までに入手できたもの)

No.	報告日	性別	年齢代	1日用量	併用薬	副作用	経過の概要	備考
1	20070403	男性	10歳代			異常行動	本年3月9日。インフルエンザB型。深夜、トイレに起きて別方向の窓(3階)を開けて出ようとしたため、家人が押さえた。その後別の窓を開け、再び出ようとしたため、家人が取り押さえ事なきを得た。本人はその時の記憶あり。	医療機関からの報告
2	20070403	女性	70歳代			譫妄、激越	本年3月28日。インフルエンザA型と判明。探し物をしてあちこちの棚を開け、制止し臥床させても起き出して行動を始める。足下はフラフラしており、探し物をする手も少し震えていた。話しかけても理解できない様子。	医療機関からの報告
3	20070403	男性	10歳代		ザナミビル水和物	幻覚、異常行動	本年3月22日。インフルエンザB型。1回目の吸入の数時間後、「誰かいる」など幻覚症状出現(体温38.9度)。2回目の吸入後、深夜、幻覚症状増悪。「外を見てくる」と言ってベランダに走って行った。家族が取り押さえた(体温40度近く)。	医療機関からの報告
4	20070403	男性	10歳未満			異常行動	本年3月末。インフルエンザA型と判明。体が浮くような感じがしてベランダに登りかけたところを家族が制止。	医療機関からの報告
5	20070403	女性	10歳代			異常行動	本年3月25日。インフルエンザA型と診断。夜、2階から降りてきて、道路に出て行こうとするので、家族が必死で制止し、なんとか押さえつけることができた。	医療機関からの報告
6	20070405	女性	10歳代		なし	譫妄 幻視	本年3月23日。インフルエンザA型と診断されたが、リン酸オセルタミビル等抗ウイルス薬は処方せず。夜、39～40℃となった。トイレで何かを追い払うような仕草でバタバタしている事に家人が気付いた。部屋につれてきててもカレンダーを指示し虫がいるかのように振舞った。表情は眼を見開き、口がゆがんでいた。	医療機関からの報告
7	20070406	女性	10歳代			激越 譫妄	ザナミビル水和物処方後、押さえ込まないと暴れたり、大声を出したりする。「死にたい」「窓から落として」などと口走ったり、2階の窓から身を乗り出そうとするので、30分間抑えていた。その後、ザナミビル水和物吸入しても症状の発現はなかった。	医療機関からの報告
8	20070406	男性	10歳代			異常行動	本年3月25日。インフルエンザA型と判明。翌日夜39.9℃の発熱。急に起き上がり部屋から出て、他の部屋へ出入りする。焦点は定まらず。意思の疎通できず夜中に3度座り込み、笑い出す。朝、本人は昨晚のことがほとんど記憶にない。	医療機関からの報告
9	20070409	男性	10歳代			異常行動	本年3月5日。夜に妙なことを言う。翌朝5:30から発熱(39.2度)により、受診。臨床的にインフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル投与したが服用せず。昼頃、おびえだし、観察していたところトイレへ走り便器に顔を突っ込むようなしぐさで「死にたい」などと言っていたので親が制止した。	医療機関からの報告

タミフル非使用例の「異常な行動」等について(その2)(平成19年4月3日~4月17日までに入手できたもの)

No.	報告日	性別	年齢代	1日用量	併用薬	副作用	経過の概要	備考
10	20070410	男性	10歳代			異常行動 譫妄	以前より誰かに追いかけられるような感覚を伴う怖い夢を見ることあり。 本年3月5日。発熱および感冒症状を認めしたが、リン酸オセルタミビルを含む薬物の処方を受けていなかった。翌朝4時過ぎより譫妄による怯え。また、その日の夜は平素と変わらぬ様子で入眠するが、夜中、自宅(3階)より転落し、現場で膝を抱えて座って叫んでいる状態を家人が発見。本人に転落前後の記憶はなかった。	医療機関からの報告
11	20070412	男性	10歳代			異常行動 悪夢 睡眠時遊行症	本年3月15日、朝から38℃台の発熱で自宅にて安静していたが、36℃台になり登校。夜0時前に就寝後、夢の中で何かに追いかけれ、それから逃げようと思ひ飛び降りたら、それが現実だった。本人が気付いたときは自宅の庭であった。翌朝4時に近所の人に発見され、救急車で搬送された。搬送時と病院到着時意識清明。体温39.4℃。インフルエンザB(+)。右第2~4中足骨骨折あり。睡眠脳波、頭部MRI正常。	医療機関からの報告

タミフル非使用例の「異常な行動」等について(その3)(平成19年4月18日～5月31日までに入手できたもの)

No.	報告日	性別	年齢代	日用量	併用薬	副作用	経過の概要	備考
1	20070419	男	10歳未満		なし	異常行動	受診時37.7℃。アジスロマイシン水和物など処方し、リン酸オセルタミビル処方せず。夜(就寝約1時間半後)、突然泣き叫び、しゃくとり虫みたいに身体を動かし、約30分、抱いていたとのこと。その後寝入る。その約30分後、再び泣き叫び15分くらいで落ち着き寝入る。深夜、叫び声あげるもまもなく寝入り朝まで問題なし。 翌日朝、38.1℃のため再受診。B型インフルエンザと診断し、リン酸オセルタミビル投与。その後、異常行動なし。	医療機関からの報告
2	20070424	男	10歳代			異常行動	部屋の中を走り回る。本人の記憶あり。 その後、インフルエンザ感染症と診断し、リン酸オセルタミビル処方するも、処方後に異常行動の発現はなかった。	医療機関からの報告
3	20070424	女	10歳代			異常行動	クローゼットに放尿。本人の記憶無し。 その後、インフルエンザ感染症と診断し、リン酸オセルタミビル処方するも、処方後に異常行動の発現はなかった。	医療機関からの報告
4	20070427	女	10歳代		リン酸コデイン セフトレンピボキシル アセトアミノフェン 塩化ナトリウム、塩化カリウム、 乳酸ナトリウム、ブドウ糖	意識障害 幻覚	咽頭痛出現。 翌日受診時39.1℃。意識清明、項部硬直なし。インフルエンザAと判明。リン酸オセルタミビルは投与せず。同日夜、体温40℃あり、意識障害と幻覚が出現したがしばらくしておさまった。	医療機関からの報告
5	20070530	女	10歳代			熱せん妄	入院2日前から38℃の発熱あり。「頭がボーンとする」と訴えていた。市販の総合感冒薬を内服したが著変なかった。 入院当日夕方、頭痛あり。「頭がおかしい。ベッドから落ちそうな感覚。怖い夢をみてベランダから飛び降りそうになる」などの訴えあり。トイレに行こうとして玄関に出ていってしまい、結局部屋にもどった。一時、ろれつがまわりにくくなった。発熱、異常行動を主訴に夜、救急受診した。受診時、40.6℃。ややボーっとした感じはあるが意思疎通に問題なし。座位、立位不能。「ベッドにじっと寝ていられない感じがする。ベッドから落ちそう」と訴えるが実際は熱くなく冷感あり。夜入院し、輸液とザナミビル1日2回吸入で経過観察となる。 翌日、深夜から早朝にかけて「うるさい」と叫ぶことが数回観察された。これ以降、異常言動・異常感覚はみられなかった。午前中には座位可能となり、この日は37℃台後半であった。 翌々日には解熱した。	医療機関からの報告

タミフル非使用例の「異常な行動」等について(その3)(平成19年4月18日～5月31日までに入手できたもの)

No.	報告日	性別	年齢代	日用量	併用薬	副作用	経過の概要	備考	
1	20070419	男	10歳未満			なし	異常行動	受診時37.7℃。アジスロマイシン水和物など処方し、リン酸オセルタミビル処方せず。夜(就寝約1時間半後)、突然泣き叫び、しゃくとり虫みたいに身体を動かし、約30分、抱いていたとのこと。その後寝入る。その約30分後、再び泣き叫び15分くらいで落ち着き寝入る。深夜、叫び声あげるもまもなく寝入り朝まで問題なし。翌日朝、38.1℃のため再受診。B型インフルエンザと診断し、リン酸オセルタミビル投与。その後、異常行動なし。	医療機関からの報告
2	20070424	男	10歳代				異常行動	部屋の中を走り回る。本人の記憶あり。その後、インフルエンザ感染症と診断し、リン酸オセルタミビル処方するも、処方後に異常行動の発現はなかった。	医療機関からの報告
3	20070424	女	10歳代				異常行動	クローゼットに放尿。本人の記憶無し。その後、インフルエンザ感染症と診断し、リン酸オセルタミビル処方するも、処方後に異常行動の発現はなかった。	医療機関からの報告
4	20070427	女	10歳代		リン酸コデイン セフジトレンピボキシル アセトアミノフェン 塩化ナトリウム、塩化カリウム、 乳酸ナトリウム、ブドウ糖		意識障害 幻覚	咽頭痛出現。 翌日受診時39.1℃。意識清明、項部硬直なし。インフルエンザAと判明。リン酸オセルタミビルは投与せず。同日夜、体温40℃あり、意識障害と幻覚が出現したがしばらくしておさまった。	医療機関からの報告
5	20070530	女	10歳代				熱せん妄	入院2日前から38℃の発熱あり。「頭がボワーンとする」と訴えていた。市販の総合感冒薬を内服したが著変なかった。 入院当日夕方、頭痛あり。「頭がおかしい。ベッドから落ちそうな感覚。怖い夢をみてベランダから飛び降りそうになる」などの訴えあり。トイレに行こうとして玄関に出ていってしまい、結局部屋にもどった。一時、ろれつがまわりになくなった。発熱、異常行動を主訴に夜、救急受診した。受診時、40.6℃。ややボーっとした感じはあるが意思疎通に問題なし。座位、立位不能。「ベッドにじっと寝ていられない感じがする。ベッドから落ちそう」と訴えるが実際は熱くなく冷感あり。夜入院し、輸液とザナミビル1日2回吸入で経過観察となる。 翌日、深夜から早朝にかけて「うるさい」と叫ぶことが数回観察された。これ以降、異常言動・異常感覚はみられなかった。午前中には座位可能となり、この日は37℃台後半であった。 翌々日には解熱した。	医療機関からの報告